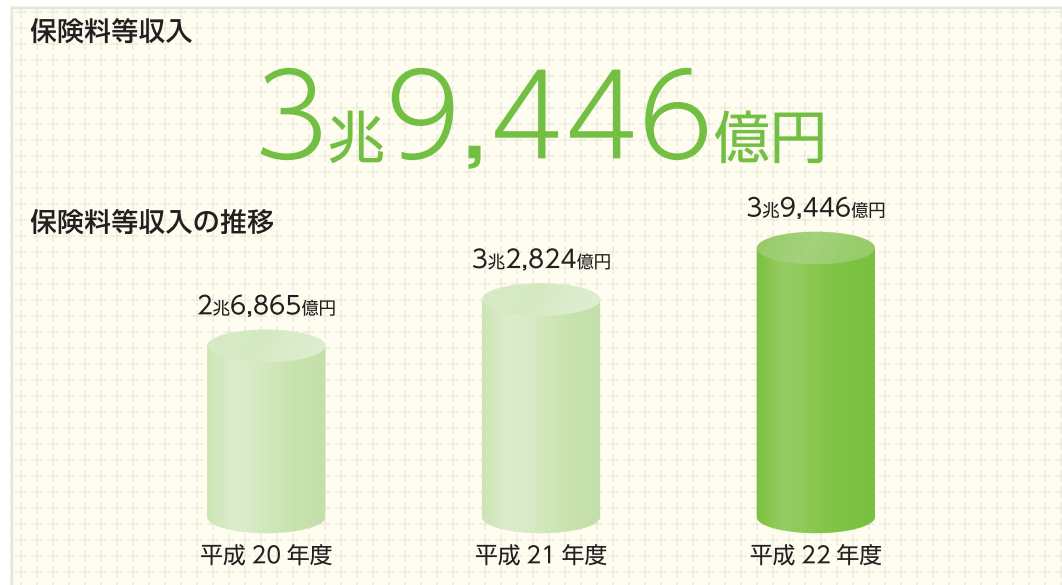


保険料等収入

みなさまのおかげで4年連続の増収となりました。



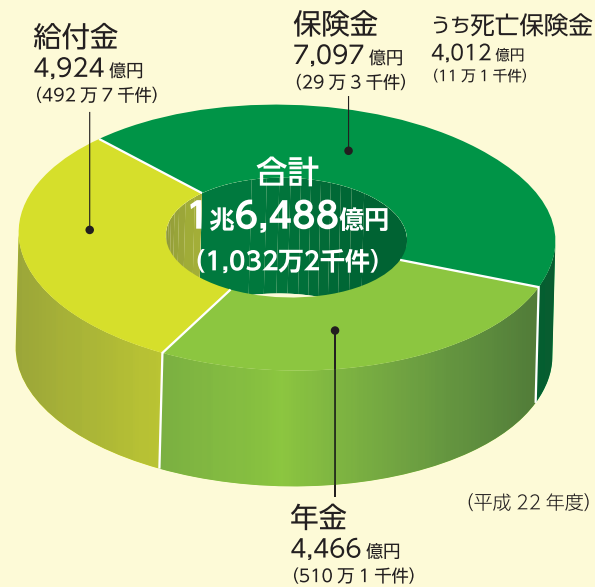
保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。平成 22 年度の保険料等収入は 3 兆 9,446 億円（前年度比 20.2% 増）で、4 年連続の増収となりました。これからもいっそうお客さまにご満足いただける取組みを進め、安定した成長をめざします。

お役に立った保険金・年金・給付金

1兆6,488億円

平成 22 年度にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は 1 兆 6,488 億円でした（1 日あたりのお支払いは約 45 億円）。これからも確実・迅速なお支払いに努め、お客さまのお役に立てるように確かな安心をお届けします。

* 給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピー L.A. ボーナスやお祝金なども含んでいます。

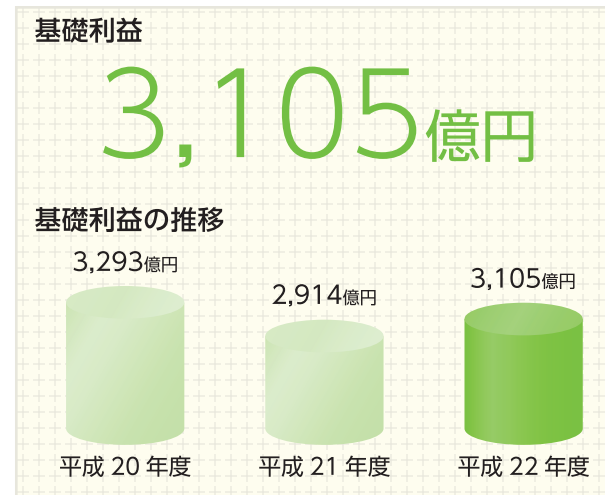


当社では、お支払い業務における重層的なチェック体制やお客さまへの充実したご説明の実施等、お支払いもれやご請求案内もれのない支払管理態勢を構築しています。また、「安心サービス活動」を通じて、保険金・給付金などのご請求がないかを確認する等、確かなお支払いに取り組んでいます。詳細については当社ホームページをご覧ください。

明治安田生命保険相互会社ホームページ ▶▶▶ <http://www.meijiyasuda.co.jp/>

基礎利益

基礎利益は増益となりました。

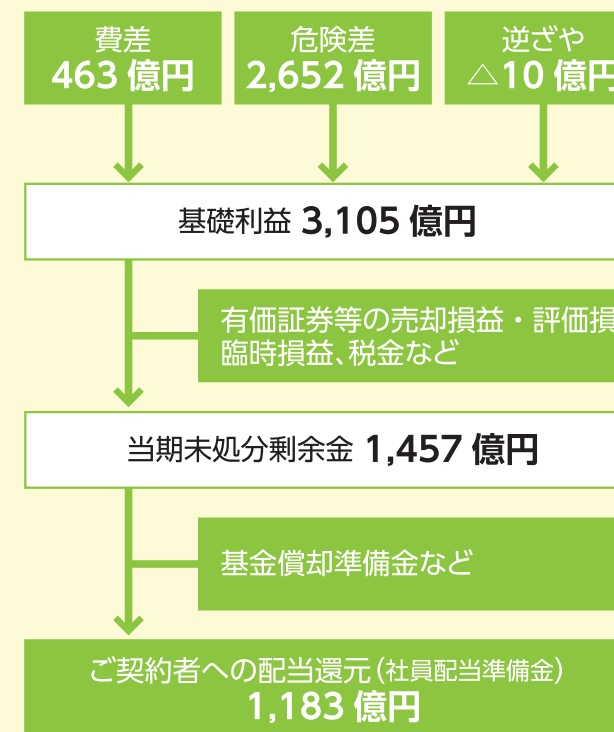


基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。平成 22 年度は逆ざやが改善したことで 190 億円の増益となり、基礎利益は 3,105 億円となりました。

三利源とご契約者への配当還元までの流れ

基礎利益は、その内訳として「費差」「危険差」「逆ざや」から構成されています。基礎利益から、有価証券等の売却損益・評価損や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した当期末処分剰余金は 1,457 億円となりました。平成 23 年 7 月の総代会決議を経て、平成 22 年度決算に基づく当期末処分剰余金 1,457 億円のうち、1,183 億円*を社員配当準備金として繰り入れます。

*法定の剰余金処分対象額に占める割合は 91.68% です。



基礎利益の内訳

(単位：億円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
基礎利益	3,293	2,914	3,105
費差	719	569	463
危険差	3,262	2,935	2,652
逆ざや	△688	△590	△10

- 費差 保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額
- 危険差 保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- 逆ざや 保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額